

InstallShield 2025 リリース ノート

オリジナル リリース 2025 年 7 月、R2 を含むアップデート リリース (2025 年 12 月)

はじめに.....	2
R2 の新しい機能.....	2
2025 R1 の新しい機能.....	3
強化機能.....	4
InstallShield 2025 R2.....	4
InstallShield 2025 R1.....	6
重要な情報.....	9
同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要.....	10
InstallShield の評価.....	10
InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する.....	11
InstallShield の複数エディションをインストールする.....	11
InstallShield の複数バージョンをインストールする.....	11
[リリース] ビューから [NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含める] オプションを削除.....	11
InstallShield エディションの名前変更.....	12
プロジェクトのアップグレードに関するアラート.....	12
InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報.....	12
ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更.....	13
文字列のローカライズに関する考慮.....	13
バグ修正.....	13
InstallShield 2025 R2.....	14
InstallShield 2025 R1.....	15
システム要件.....	17
InstallShield を実行するシステムの要件.....	17
ターゲット システムの要件.....	18
既知の問題.....	19
管理者権限で InstallShield を実行した場合の VMware Workstation のネットワーク ドライブへのアクセス問題.....	19
64 ビット InstallScript セットアップの InstallScript オブジェクト制限.....	20
法的情報.....	21

はじめに

InstallShield はハイクオリティな Windows Installer、InstallScript ベースのインストール、および MSIX パッケージをオーサリングするための業界標準ツールです。

InstallShield 2025 では、最新テクノロジーを手軽に使用できる新しい機能、強化機能とバグ修正も提供されています。

R2 の新しい機能

InstallShield 2025 R2 には、以下の新機能が追加されています:

- ・ [仮想マシンのサポートの強化](#)
- ・ [InstallShield 前提条件ダイアログに追加された新しいレジストリ条件タイプ](#)

仮想マシンのサポートの強化

InstallShield 2025 R 2は、インストールを実行できる次の仮想環境をサポートすることで、仮想マシン検出機能を強化します:

- ・ Xen
- ・ Amazon EC 2 インスタンス
- ・ QEMU
- ・ Parallels Desktop
- ・ Google Compute
- ・ Microsoft Azure
- ・ EverRun

仮想マシンのこの拡張されたサポート（前述）により、InstallShield はインストールが実行されている環境を正確に識別できるため、より信頼性が高く、予測可能なインストール動作を実現できます。これにより、幅広い仮想プラットフォームで徹底的な互換性チェックが可能になり、インストール エラーのリスクが軽減され、基礎となるシステムにかかわらず、ユーザーにとってシームレスでスムーズなエクスペリエンスが保証されます。

InstallShield 前提条件ダイアログに追加された新しいレジストリ条件タイプ

InstallShield 2025 R 2 は、**[前提条件]**ダイアログボックスに **レジストリ エントリがワイルドカード パターンに一致し、指定されたバージョン 値を持つ**という名前の新しい条件タイプを導入しました。この条件タイプを選択して構成すると、InstallShield はターゲットシステム上で、指定または入力されたレジストリ サブキー名と一致する各レジストリキー内の値データとして格納されているバージョン番号が、指定または入力されたバージョン番号よりも大きいか、小さいか、または等しいかをチェックできます。

この新しい条件タイプを選択すると、レジストリ サブキー名の予測可能な部分とワイルドカード文字 (%) を指定できます。具体的には、**”確認するレジストリキー名を指定します”** フィールドでキー名、**”確認するレジストリ値名を指定します”** フィールドで値名、**”確認するレジストリ値データを指定します”** フィールドで値データをそれぞれ指定します。

予測可能なレジストリ サブキー名パターンを指定する場合、レジストリ サブキー名と共にワイルドカード文字 (%) を使用する必要があります。

例:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Microsoft\Updates\NET Core\Microsoft .NET Core%
```

この場合、InstallShieldは、Microsoft .NET Core を含む名前を持つターゲット システム上の .NET Core ノードの下にあるすべてのレジストリ サブキーを検索し、一致する各レジストリ サブ キー内で入力または指定されたレジストリ値と値データを評価します。



メモ ワイルドカード文字 (%) は、非常に柔軟かつ正確な検索であるために、レジストリ サブキー名内で複数回使用することができます。たとえば、“%Microsoft% %NET% %Core%” のようなパターンにより、InstallShield は幅広い関連レジストリ サブキーを識別することができます。

この条件タイプでは、**[以下の場合に前提条件を実行します]** ドロップダウンから適切な条件を選択して、このダイアログボックスで指定したレジストリ エントリとターゲット マシン上のレジストリ エントリとを比較できます。また、64 ビット システム上でチェックを行う適切なレジストリの場所 (**32 ビット** または **64 ビット**) を選択することもできます。**[デフォルト]** ラジオボタンは、特定のオプションが選択されていないことを示し、32 ビット レジストリの場所がチェックされます。

詳しい情報は、*InstallShield* ヘルプ ライブラリの「前提条件ダイアログ ボックス」を参照してください。

2025 R1 の新しい機能

InstallShield 2025 R1 には、以下の新機能が追加されています:

- アドバンスド UI およびスイート/アドバンスドUIインストールでハイコントラストモードをサポート
- 64 ビット InstallScript ベースのセットアップ ランチャーのビルドをサポート

アドバンスド UI およびスイート/アドバンスドUIインストールでハイコントラストモードをサポート

以前のバージョンでは、アドバンスド UI およびスイート/アドバンスド UI インストーラーのインストール中に、ウィザード ページ上の本文テキストやヘッダーテキスト、ナビゲーション ボタンのラベルなどのテキスト要素は、ターゲット システムでハイコントラスト モードが有効になっている場合には読み取れませんでした。

InstallShield 2025 R 1では、アドバンスド UI およびスイート/アドバンスドUIインストールが、ターゲット システムのハイコントラスト モードをサポートするように拡張されています。この機能強化により、ターゲット システムにハイコントラスト モードを設定すると、各ウィザード ページの本文テキストやヘッダー テキスト、ナビゲーション ボタンのラベルなどのテキスト要素が明確に読み取れるようになり、アクセシビリティとユーザー エクスペリエンスが向上します。

詳細については、*InstallShield*ヘルプライブラリの「アドバンスド UI またはスイート/アドバンスド UI インストールのウィザード ページでハイコントラスト モードをサポートする」を参照してください。

64 ビット InstallScript ベースのセットアップ ランチャーのビルドをサポート



プロジェクト この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- *InstallScript*
- *InstallScript MSI*

InstallShield 2025 R 1では、**[メディア]** ビューの **[リリース]** エクスプローラーにあるリリースの **[ビルド]** タブに、**[アーキテクチャ]** という名前の新しい設定が導入されています。この設定により、デプロイメント要件に応じて、32 ビット (x 86) および 64 ビット (x 64) Windowsプラットフォームの両方、または 64 ビット (x 64) Windows プラットフォーム専用の InstallScript ベースのセットアップ ランチャーをビルドできるようになり、柔軟性が向上します。

この設定を導入することで、適切なシステム アーキテクチャを簡単にターゲットにして、アプリケーションのランタイム環境に合わせることができます。次のオプションを選択できます：

- **x86**—このオプションを選択すると、32 ビットと 64 ビットの両方の Windows プラットフォームで動作する 32 ビット セットアップ ランチャーがビルドされます。
- **x64**—このオプションを選択すると、64 ビット Windows プラットフォーム上で動作する 64 ビット セットアップ ランチャーがビルドされます。

デフォルトで、この設定は **x86** になっています。

強化機能

InstallShield 2025 には、以下の強化機能が含まれています：

- [InstallShield 2025 R2](#)
- [InstallShield 2025 R1](#)

InstallShield 2025 R2

InstallShield 2025 R2 には、次の強化機能が含まれています：

- [\[使用許諾契約\] ダイアログでのハイパーリンクのサポート](#)
- [テレメトリ データ収集のためのカスタマーエクスペリエンス向上プログラムのサポート](#)
- [マウススクロールによる \[使用許諾契約書の条件に同意します\] オプションの自動選択](#)

[\[使用許諾契約\] ダイアログでのハイパーリンクのサポート](#)

以前は、**SdLicenseEx** および **SdLicense2Ex** InstallScript ダイアログ関数は、使用許諾契約書のリッチテキストファイル (.rtf) に含まれるハイパーリンクをサポートできませんでした。

InstallShield 2025 R2 では、両方の InstallScript ダイアログ機能が、使用許諾契約リッチテキスト ファイルに含まれるハイパーリンクをサポートするようになりました。この機能拡張により、実行時にエンドユーザーは **[使用許諾契約]** ダイアログに表示される必要なハイパーリンクをクリックして、定義されたリンク先を起動または開くことができるようになりました。

ハイパーリンクのサポートにより、エンドユーザーは、**SdLicenseEx** または **SdLicense2Ex** 関数で表示されるライセンス契約リッチテキスト ファイルから、詳細なライセンス条件、企業 Web サイト、または関連ドキュメントなどの外部リソースへ直接アクセスできます。



メモ この変更は ISDEV-44568 として記録されています。

テレメトリ データ収集のためのカスタマーエクスペリエンス向上プログラムのサポート

InstallShield 2025 R2 では、**[ツール]** メニューの**[オプション]** ダイアログボックスに **[品質]** タブが新しく追加されました。**[品質]** タブでは、InstallShield の**カスタマー エクスペリエンス向上プログラム**への参加設定を行うことができます。このプログラムへの参加を選択または設定すると、InstallShield ユーザーインターフェースの使用状況に関する簡単な 5 分程度のアンケートへのご協力をお願いします場合があります。アンケート完了後、**カスタマーエクスペリエンス向上プログラム**を通じて収集されたすべての使用状況データは、Flexera Software LLC の部門である Revenera へ安全に送信され、処理されます。

このプログラムは、匿名の使用データとテレメトリ データの収集を通じて、Revenera が InstallShield の信頼性、パフォーマンス、およびユーザー エクスペリエンスを向上させるのに役立つように設計されています。InstallShield の**カスタマーエクスペリエンス向上プログラム**への参加は、次のオプションから設定できます：

- ・ **はい、参加します(推奨)**— このオプションを選択すると、プログラムに参加できます。デフォルトで、このオプションが選択されています。
- ・ **いいえ、参加しません。**— このオプションを選択すると、プログラムへの参加が無効になります。

ユーザーは、**[ツール]** > **[オプション]** > **[品質]** タブからいつでも**カスタマーエクスペリエンス向上プログラム**への参加を変更できます。選択したオプションを有効にするには、InstallShield IDE を再起動する必要があります。

詳しい情報は、*InstallShieldヘルプ ライブラリ*の次の「**[品質]** タブ」を参照してください。



メモ この変更は ISDEV-44746 として記録されています。

マウススクロールによる [使用許諾契約書の条件に同意します] オプションの自動選択

InstallShield 2025 R2 では、エンドユーザーがスクロール可能な EULA コントロールでエンドユーザーライセンス契約 (EULA) テキストの最後までスクロールすると、**[使用許諾契約]** ダイアログの **[使用許諾契約に同意します]** オプションが自動的に選択される機能が導入されました。

デフォルトで、この自動選択機能は無効になっています。この機能を有効にするには、**LicenseAgreement** ダイアログの **Memo** (ScrollableText) コントロールで**SetProperty** イベントを構成する必要があります。

構成されると、エンドユーザーがマウス スクロールを介して EULA テキストの最後に到達すると、インストーラーは **[使用許諾契約に同意します]** オプションを自動的にチェックし、**[次へ]** ボタンを有効にします。

詳細な使用方法については、*InstallShield* ヘルプ ライブラリの「LicenseAgreement ダイアログでエンドユーザーが EULA を最初から最後までスクロールするのを必須にする」を参照してください。



メモ この変更は ISDEV-44693 として記録されています。

InstallShield 2025 R1

InstallShield 2025 R1 には、次の強化機能が含まれています:

- [ファイルの説明と著作権通知を指定するコマンドラインパラメーター](#)
- [APPX/MSIX パッケージングのオートメーション インターフェイス サポート](#)
- [イベント コマンドの実行失敗時のエラーメッセージ表示を管理する機能](#)
- [64 ビット InstallScript エンジンを使用した InstallScript カスタムアクションの実行をサポート](#)
- [64 ビット アップデート ランチャーの作成をサポート](#)
- [新しい Microsoft .NET Framework 前提条件のサポート](#)

ファイルの説明と著作権通知を指定するコマンドラインパラメーター

InstallShield 2025 R1には、`setup.exe` ファイルの説明と製品著作権表示をカスタマイズできる 2 つの新しいコマンドライン パラメーターが導入されています。これらのパラメーターは、リリースをビルドするときに、`setup.exe` 実行ファイルに目的のデータが含まれていることを確認するために、`ISCmdBld.exe` コマンドライン ツールと共に使用する必要があります。新しいコマンドラインパラメーターは次の通りです:

- **-fd**—このパラメーターを使用して、`setup.exe` ファイルに必要な説明を指定し、デフォルトのファイルの説明をオーバーライドします。
- **-fc**—このパラメーターを使用して、`setup.exe` ファイルに必要な製品著作権情報を指定し、デフォルトの著作権情報をオーバーライドします。

詳しい情報は、*InstallShield* ヘルプ ライブラリの「[ISCmdBld.exe](#)」を参照してください。



メモ この変更は ISDEV-42570 として記録されています。

APPX/MSIX パッケージングのオートメーション インターフェイス サポート

以前のリリースでは、オートメーション インターフェイスを使用して Windows アプリ パッケージ (.appx / .msix) を作成できませんでした。Windows アプリパッケージ (.appx / .msix) を構成および作成できるのは、**[Appx/MSIX]** タブを使用してのみです。このタブは、InstallShield IDEの **[リリース]** エクスプローラーに表示されるリリースで使用できます。

InstallShield 2025 R1では、オートメーションインターフェイスを使用してWindows アプリ パッケージ (.appx / .msix) のビルドプロセスを作成および管理できるようになりました。

詳細については、*InstallShield* ヘルプ ライブラリの「[ISWiReleaseオブジェクト](#)」を参照してください。



メモ この変更は ISDEV-42945 として記録されています。

イベント コマンドの実行失敗時のエラーメッセージ表示を管理する機能

以前は、ビルド プロセス中に "ビルド前のイベント"、"ファイルの準備イベント"、"圧縮前のイベント"、または "ビルド後のイベント" 設定 ([イベント] タブ内) で指定されたコマンドが失敗した場合、ビルドが完了した後にエラー メッセージは表示されませんでした。

InstallShield 2025 R 1 を使用すると、"ビルド前のイベント"、"ファイルの準備" イベント、"圧縮前のイベント"、または "ビルド後のイベント" 設定で指定されたコマンドがビルドタイムに実行されなかった場合、インストーラーが正しくビルドされた後のエラーメッセージの表示を管理または制御できます。この動作は、Settings.xml ファイルで使用可能な `<TreatBuildEventFailuresAsErrors default="no" />` 要素を次のように変更することで構成できます。

- ビルドタイムに、これらの [イベント] タブの設定のいずれかで指定されたコマンドの実行に失敗した場合、インストーラーのビルドが成功した後にエラーメッセージを表示できるようにするには、Settings.xml ファイルで `TreatBuildEventFailuresAsErrors` パラメーターを [はい] に設定します。
- ビルド時に、これらの [イベント] タブの設定のいずれかで指定されたコマンドの実行に失敗した場合、インストーラーのビルドが成功した後にエラー メッセージが表示されないようにするには、Settings.xml ファイルで `TreatBuildEventFailuresAsErrors` パラメーターを [いいえ] に設定します。

詳しい情報は、*InstallShieldヘルプ ライブラリ*の次の項目を参照してください。

- イベント設定コマンドの実行失敗に対するエラー表示の管理
- ビルド エラーと警告



メモ この変更は ISDEV-44034 として記録されています。

64 ビット InstallScript エンジンを使用した InstallScript カスタムアクションの実行をサポート



プロジェクト この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI
- マージ モジュール

InstallShield 2025 R 1は、[カスタム アクションヒューリスティクス] ビューまたは [カスタム アクション] ビューの [アクション] 領域に、"64ビット InstallScript を実行" という新しい設定を導入しました。この新しい設定により、64 ビットターゲット システム上の 64 ビットファイル システムおよび 64 ビットレジストリの場所への適切なアクセスを有効にするために、64 ビット InstallScript エンジンを使用して InstallScript カスタムアクションを実行するかどうかを指定できます。設定には、次のオプションがあります：

- **はい**—このオプションを選択すると、InstallScript カスタムアクションが 64 ビット InstallScript エンジンを使用してのみ実行されます。このオプションは、カスタムアクションが 64 ビットター

ゲットシステム上の 64 ビット ファイル システムまたは 64 ビット レジストリの場所にアクセスする必要がある場合に適しています。

- **いいえ**—このオプションを選択すると、InstallScript カスタムアクションが 32 ビット InstallScript エンジンを使用してのみ実行されます。このオプションは、カスタムアクションが 64 ビットターゲットシステム上の 32 ビット ファイル システムまたは 32 ビット レジストリの場所にアクセスする必要がある場合に適しています。

デフォルトで、“64ビットInstallScriptを実行” 設定は [いいえ] になっています。



メモ この変更は ISDEV-44358 として記録されています。

64 ビットの InstallScript 実行での 32 ビット リソース アクセスのサポート強化

InstallShield 2025 R 1 は、64 ビット InstallScript エンジンを使用してカスタムアクションを実行しながら、32 ビット ファイル システム パスおよび 32 ビット レジストリの場所へのアクセスをサポートしています。この機能は、インストーラーが 64 ビット Windows プラットフォーム上の 32 ビット アプリケーションまたはシステム領域と対話する必要がある場合に特に便利です。このサポートは、32 ビット リソースとの互換性のために設計された新しいオプション、定数、およびシステム変数の導入によって有効になります。

- **REGDB_OPTION_WOW64_32KEY**—レジストリアccessを 64 ビット オペレーティング システム上の 32 ビット レジストリの場所にリダイレクトするように設定できる新しいオプション。これは、32 ビット アプリケーションに固有のレジストリキーを設定またはクエリするときに便利です。
- **IS_PERMISSIONS_OPTION_32_BIT_OBJECT** – SetObjectPermissions InstallScript 関数内の nOptions パラメーターの新しい定数。この定数を使用すると、32 ビット レジストリ キーのアクセス許可を有効にできます。
- **FOLDER_APPLICATIONS32**—32ビットのProgram Files フォルダーに解決される新しいシステム変数（通常、64 ビット システムでは C:\Program Files (x86)）。この変数は、32 ビット アプリケーションをインストールまたは変更するときに正しいパスをターゲットにするのに便利です。



メモ この変更は ISDEV-44356 として記録されています。

64 ビット アップデート ランチャーの作成をサポート



プロジェクト この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI
- QuickPatch

InstallShield 2025 R 1 には、“64 ビット” という名前の新しい設定が導入されています。これにより、現在のパッチに 64 ビット バージョンの update.exe アップデートランチャーを生成できます。

この設定は、プロジェクトの種類に基づいて、次の場所で使用できます：

基本の MSI プロジェクトと InstallScript MSI プロジェクトの種類

[パッチのデザイン] ビューでパッチの構成の [詳細] タブの [実行時の設定] 領域にある "Update.exe の作成" 設定で使用できます。

QuickPatch プロジェクトの種類

[一般情報] ビューの [ビルドの設定] セクションの [詳細] タブで [一般] 領域にある "Update.exe の作成" 設定で使用できます。

"64 ビット" 設定には、次のオプションがあります:

- **はい** - 64 ビットバージョンの update.exe アップデート ランチャーを作成するには、このオプションを選択します。
- **いいえ** - 32 ビットバージョンの update.exe アップデート ランチャーを作成するには、このオプションを選択します。

デフォルトで、"64ビット" 設定は [いいえ] になっています。

64 ビット アップデート ランチャーは、パッチが x 64 アーキテクチャでビルドされた InstallScript MSI プロジェクトを対象とするシナリオのパッチ インストールを処理するように設計されたブートストラップ アプリケーションです。



メモ "ランチャー名の更新" 設定を有効にするには、"Update.exe の作成" 設定も [はい] に設定されていることを確認します。



メモ この変更は ISDEV-44637 として記録されています。

新しい Microsoft .NET Framework 前提条件のサポート

InstallShield 2025 R1 では、[アプリケーション データ] ビューの [再配布可能ファイル] エクスプローラーに次の 2 つの前提条件が追加されました:

- Microsoft .NET Framework 4.8.1 (完全版)
- Microsoft .NET Framework 4.8.1 (Web インストーラー)

これらの新しい前提条件は、Windows 10、Windows 11、Windows Server 2022、およびそれ以降のバージョンでのみサポートされています。



メモ この変更は ISDEV-44634 として記録されています。

重要な情報

InstallShield 2025 リリースに関する次の重要な情報に注意してください:

- [同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要](#)
- [InstallShield の評価](#)

- [InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する](#)
- [InstallShield の複数エディションをインストールする](#)
- [InstallShield の複数バージョンをインストールする](#)
- [\[リリース\] ビューから \[.NET/J#\] タブおよび \[MSI エンジンを含める\] オプションを削除](#)
- [InstallShield エディションの名前変更](#)

同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要

InstallShield の同時接続ライセンスを使用する場合、InstallShield 2025 を使用する前にライセンス サーバー上の FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンをアップデートする必要があります。

InstallShield の以前のバージョンと共に出荷された FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンでは、InstallShield 2025 のライセンスを管理することはできません。これらのライセンスが使用可能な場合でも、InstallShield 2025 は古いバージョンのライセンス サーバーからライセンスをチェック アウトしません。



メモ FlexNet Licensing Server ソフトウェア v11.19.0 で、InstallShield 2024 および InstallShield 2025 のライセンスを管理することができます。InstallShield 2024 から InstallShield 2025 にアップグレードすると、既存する FlexNet Licensing Server ソフトウェア v11.19.0 を使用できるようになります。InstallShield 2021 以前のバージョンからアップグレードする場合、FlexNet Licensing Server ソフトウェアを v11.19.0 にアップグレードする必要があります。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアの最新版は、[Reverera 製品 & ライセンス センター](#)からダウンロードできます。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアのインストール手順については、「[同時接続ライセンス用のライセンス サーバーを設定する](#)」を参照してください。

InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールしてアクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、「[InstallShield 評価版の機能制限について](#)」を参照してください。評価版の制限は、InstallShield がアクティベートされたとき、またはライセンス サーバーに接続して、そのライセンスがチェックアウトされたときに解除されます。



メモ InstallShield 2023 から 2023 まで、Professional Edition は「InstallShield Edition」と、Premier Edition は引き続き「InstallShield Premier」と呼ばれていました。InstallShield 2024 より、「InstallShield Edition」が「InstallShield Professional」に戻ります。

InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

次のインストールは、[\[InstallShield のダウンロードおよびライセンスの使用\]](#) に記述されている通り、Reverera 製品 & ライセンス センターからダウンロードが可能です:

- InstallShield
- 再配布可能ファイル (例えば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト)
- Standalone Build、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン (使用可能な場合)
- FlexNet Licensing Server ソフトウェア (同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンスサーバーを設定する必要がある場合)
- スキン カスタマイズ キット
- InstallScript オブジェクトのテンプレート
- InstallShield サービス パック (使用可能な場合)



メモ InstallShield 2021 より、Collaboration Edition (DIM エディター) が使用できなくなりました。

InstallShield の複数エディションをインストールする

同じシステム上に InstallShield 2025 Premier Edition または Professional Edition のどちらか 1 つのエディションのみをインストールすることができます。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2025 は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield 2025 Standalone Build は、別のバージョンの Standalone Build と同じマシン上に同時にインストールすることができます。ほとんどの場合、InstallShield がインストールされているマシン上に Standalone Build がインストールされることはありません。InstallShield と Standalone Build を同じマシン上にインストールしてオートメーション インターフェイスを使用するには、InstallShield ヘルプ ライブラリの「[Standalone Build と InstallShield を同一のマシン上にインストールする](#)」を参照して、特別な登録およびアンインストールについて考慮すべき点に留意してください。

[リリース] ビューから [.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含める] オプションを削除

[インストール デザイナー] の [メディア] ビューに表示される [リリース] エクスプローラーで、[.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含む] オプションには .NET 1.1/2.0, Windows Installer 3.1 および J# 再配布可能ファイルのサポートが提供されていました。これらの古いテクノロジーは、Microsoft によるサポートが停止されました。これに伴い、InstallShield 2023 のすべてのエディションから、[インス

ツールデザイナー] の [メディア] ビューに表示される [リリース] エクスプローラーで、[NET/J #] タブおよび [MSIエンジンを含む] オプション (並びに関連する [.NET 1.1/2 .0コア言語] と [.NET 1.1/2 .0言語パック] ダイアログボックス) が削除されました。InstallShield 2023 以降のビルド タスクは、古いバージョンのプロジェクトファイルでこれらのオプションが検出されても無視します。

InstallShield エディションの名前変更

InstallShield 2020 およびそれ以前のリリースで、InstallShield には次の名前の 2 つのエディションがありました:

- InstallShield Professional Edition
- InstallShield Premier Edition

InstallShield 2021 から 2023 まで、**Professional Edition** が **InstallShield Edition** に変更され、次の 2 つのエディションがありました:

- InstallShield Edition
- InstallShield Premier Edition

InstallShield 2024 から、エディション名が Professional Edition および Premier Edition に戻りました。

- InstallShield Professional Edition
- InstallShield Premier Edition

プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2016 および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2025 にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2025 プロジェクトと InstallShield 2016 および以前のバージョンから InstallShield 2025 にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

- [InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報](#)
- [ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更](#)
- [文字列のローカライズに関する考慮](#)

InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield で変換が行われる前に、例えば .777 (.ism プロジェクトの場合) または .2016 (.issuite プロジェクトの場合) というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .777 または .2016 を取り除いてください。

InstallShield 2016 以前、InstallShield 12 以前、InstallShield DevStudio、InstallShield Professional 7 以前、および InstallShield Developer 8 以前のバージョンの InstallShield で作成された既存プロジェクトを InstallShield 2025 にアップグレードできます。



メモ: 次の情報を参考にして下さい:

- *InstallShield 2025 プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできません。*
- *InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universalで作成されたプロジェクトは InstallShield 2025 にアップグレードすることはできません。*

ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更

すべてのプロジェクト タイプで、InstallShield で生成されたインストールを実行するためにターゲット システムに必要な Windows の最小バージョン要件は Windows 7 および Windows Server 2008 R2 です。

文字列のローカライズに関する考慮

InstallShield 2016 から、ローカライズ済み文字列の検出と受け渡しに関する変更が行われました。たとえば、無効な文字のまわりに角括弧が付けられたローカライズ済み文字列のコンテンツは、ビルド時の警告またはエラーを引き起こします。そのため、インストールの作成作業中に次の新しい警告やエラーが発生する場合があります。

エラー/警告番号	Message	トラブルシューティング情報
-7355	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。	この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。
-7354	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。	このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていないときに発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。

バグ修正

このセクションには、InstallShield の以下のバージョンで修正された顧客の問題が掲載されています:

- [InstallShield 2025 R2](#)
- [InstallShield 2025 R1](#)

InstallShield 2025 R2

次の問題が、InstallShield 2025 R2 で修正されました:

問題番号	問題の概要
ISDEV-44438	[セットアップのデザイン] ビューで機能の [全般] 領域にある "コメント" フィールドから、アポストロフィーまたは単一の引用符を含むコメントを削除しようとする、削除に失敗し、「Windows Installer エラー 2237」が表示されました。この問題は解決されました。
ISDEV-44479	<ISRedistPlatformDependentFolder> ディレクトリ内の SetAllUsers.dll ファイルで
ISDEV-44739	SYSINFO.bIsVirtualMachine フラグと ISDetectVM 関数を使用すると、物理 Windows マシンが Hyper-V マシンとして誤って検出されました。この問題は解決されました。
ISDEV-44498	[セットアップのデザイン] エクスプローラーで機能の [全般] 領域にある "必須機能" 設定を使用して、多数の機能が含まれている場合にクラッシュが発生しました。この問題は解決されました。
ISDEV-44519	SQLLogin ダイアログおよび InstallScript MSI プロジェクトの他の SQL 関連ダイアログにターゲット データベース カタログのフルネームを入力しようとしたときに、名前が切り捨てられる問題が発生しました。この問題は解決されました。
ISDEV-44684	InstallShield 2023 R2 Premier Edition を使用してビルドした基本の MSI ベースの setup.exe ファイルを起動すると、次のエラーが発生しました: セットアップ初期化ファイルの読み取りエラー この問題は解決されました。
ISDEV-44719	特定の InstallShield DLL と実行可能バイナリが、デジタル署名なしで識別されました。この問題は、内部セキュリティとコンプライアンスの要件に沿って、有効なコード署名証明書を使用して、該当するすべての DLL と実行可能バイナリにデジタル署名を適用することで修正されました。
ISDEV-44687	古い Microsoft ライブラリ ファイルの存在が原因で、InstallShield をバージョン 2012 からバージョン 2025 に更新中にアップグレード エラーが発生しました。この問題は解決されました。
ISDEV-44528	コンポーネントのエクスポート ウィザード を使用して、コンポーネントを基本の MSI からマージ モジュール プロジェクトにエクスポートすると、InstallShield がクラッシュしました。この問題は解決されました。
ISDEV-44798	スイート/アドバンスプロジェクトベースのアンインストールを実行すると、重大度の高いセキュリティ脆弱性が発生し、任意のファイルとフォルダが意図せずに削除される可能性があります。この問題は解決されました。

問題番号	問題の概要
ISDEV-44626	デジタル署名が構成されていない場合、ビルド ログに誤った署名メッセージが表示されました。この問題は解決されました。さらに、アイコン ファイルは、“パッケージ内のファイルに署名”設定が[[はい] に設定され、“除外するパターンとファイル” 設定が適切に設定されている場合にのみ署名されるようになりました。
ISDEV-44860	ビルド ログでエラーコードに関連付けられたハイパーリンクをクリックすると、Revenera コミュニティのヘルプ記事ではなく、無効な Web ページにリダイレクトされました。この問題は解決されました。

InstallShield 2025 R1

次の問題が、InstallShield 2025 R1 で修正されました:

問題番号	問題の概要
ISDEV-42627	InstallScript プロジェクトでは、setup.exe ファイルの名前にスペースが含まれている場合、再起動後にインストールを再開できませんでした。この問題は解決されました。
ISDEV-44380	ISSetup.dll ファイルのリリース バージョンが InstallScript ベースのプロジェクトに含まれている場合、デバッグ プロパティが予期せず検出されました。この問題は解決されました。
ISDEV-44261	Azure DevOps ビルド パイプラインを実行すると、ビルド警告が表示されますが、関連するビルド プロセスが成功しました。この問題は解決されました。
ISDEV-41926	InstallShield の前提条件によってトリガーされたシステムの再起動が実行された場合、インストーラーのインストールは、中断した場所から再開するのではなく、最初のダイアログから再開されました。この問題は解決されました。
ISDEV-44337	奇数の二重引用符を含むカスタム コマンドライン パラメーターを使用して setup.exe を実行すると、タスク マネージャーで複数の setup.exe インスタンスを表示し、%TEMP% ディレクトリに複数のフォルダーが作成されます。この問題は解決されました。
ISDEV-44421	PowerShell スクリプトと InstallShield オートメーション インターフェイスを使用して Suite プロジェクトをビルドしているときに、PowerShell クラッシュが発生しました。この問題は解決されました。
ISDEV-44289	InstallShield が Windows ハイコントラストモードをサポートできませんでした。この問題は解決されました。
ISDEV-44252	‘=’ 記号で/z (Setup.exe のコマンドラインパラメーター) を実行するときにエラーが発生しました。具体的には、CMDLINE プロパティは‘=’ 記号の後に値を保持できませんでした。この問題は解決されました。

問題番号	問題の概要
ISDEV-44255	CustomActionData プロパティから遅延管理コード (C #) カスタムアクションに渡されたパスワード値が、詳細な MSI ログファイルで予期せず公開されました。この問題は解決されました。
ISDEV-43996	マシンの小数点区切り記号をドット (.) から コンマ (,) に変更すると、最小限のウィザードページを含むスイート インストーラーのインストールに失敗しました。この問題は解決されました。
ISDEV-43626	64 ビット ターゲット システムの QuickPatch プロジェクトで 64 ビット レジストリ キーを作成または更新すると、64 ビットディレクトリに同じレジストリキーを含めたり更新したりできませんでした。代わりに、キーは 32 ビットディレクトリに追加または更新されました。この問題は解決されました。
ISDEV-43254	スイート プロジェクトの自動化スクリプトを実行すると、新しく作成された機能の DisplayName プロパティを正しい文字列に設定できませんでした。代わりに、このプロパティを文字列 ID に設定しました。この問題は解決されました。
ISDEV-42980	スイート インストーラーのアンインストールで、C:\Program Files (x86)\InstallShield Installation Information folder ディレクトリ内のキャッシュされた {Suite GUID } フォルダーとキャッシュされた Setup.exe ファイルの両方を削除できませんでした。この問題は解決されました。
ISDEV-44389	顧客固有の .dll ファイルと、ローカルアセンブリとしてのみ構成された “.NETアセンブリ” 設定を使用してビルドされたインストーラーによって、.NET Framework 3.5 の [Windows 機能] ダイアログダイアログがトリガーされました。この問題は InstallShield 2024 R 2 のみを使用してビルドされたインストーラーに限定されており、現在は修正されています。
ISDEV-44418	サポートされている 2 つの言語 (アラビア語 (サウジアラビア) とヘブライ語) に関連する必要なすべての .dll ファイルが、InstallShield IDE またはスタンドアロン ビルドのインストール場所にありませんでした。この問題は解決されました。
ISDEV-43368	自動アップグレード アイテムの [言語] 列に複数の言語が含まれている場合、setup.exe を古いバージョンから新しいバージョンにアップグレードするときに、自動アップグレードプロセス中に障害が発生しました。この問題は解決されました。
ISDEV-44308	InstallScript ダイアログの静的 (ラベル) コントロールで SS.NOTIFY ウィンドウ スタイルを使用すると、エラーが発生しました。この場合、静的コントロールは予想通りにマウス イベントに応答しませんでした。この問題は解決されました。
ISDEV-42678	空のプロジェクトにマージ モジュール検証スイートを使用すると、ICEM 10、ICEM 03、および ICEM 103 エラーが発生しました。この問題は解決されました。

問題番号	問題の概要
ISDEV-44584	ISO ファイルを使用して setup.exe をインストールしようとする、インストールに失敗し、次のエラーが表示されました: LAAW_PARAMETERS.nLaunchResult: 1203 この問題は解決されました。

システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム (ランタイム環境) の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム (オーサリング環境) の要件が説明されています。

- ・ [InstallShield を実行するシステムの要件](#)
- ・ [ターゲット システムの要件](#)

InstallShield を実行するシステムの要件

InstallShield は、これらのオペレーティング システムの最も新しいパッチおよびサービス パックが適用されている最新版で実行します。

項目	説明
プロセッサ	Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)
RAM	1 GB の RAM (2 GB 推奨)
ハードディスク	1 GB 空き領域
ディスプレイ	1024 x 768 (XGA) 以上の解像度
オペレーティング システム	<ul style="list-style-type: none"> ・ Windows Server 2012 R2 ・ Windows 10 ・ Windows Server 2016 ・ Windows Server 2019 ・ Windows 11 ・ Windows Server 2022 ・ Windows Server 2025
権限	システムの管理者権限
マウス	Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス

項目	説明
InstallShield と Visual Studio との統合 (オプション)	<p>Microsoft Visual Studio の以下のバージョンを InstallShield Premier Edition または Professional Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Visual Studio 2012 • Visual Studio 2013 • Visual Studio 2015 • Visual Studio 2017 • Visual Studio 2019 • Visual Studio 2022 <p>Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディションは、InstallShield Premier または Professional Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Professional • Premium • Ultimate • Enterprise

ターゲット システムの要件

ターゲットシステムで次の最小オペレーティング システム要件を満たす必要があります:

- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows Server 8.1
- Windows Server 2012 R2
- Windows 10
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows 11
- Windows Server 2022
- Windows Server 2025

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

既知の問題

InstallShield 2025 の既知の問題は次の通りです:

- [管理者権限で InstallShield を実行した場合の VMware Workstation のネットワーク ドライブへのアクセス問題](#)
- [64 ビット InstallScript セットアップの InstallScript オブジェクト制限](#)

管理者権限で InstallShield を実行した場合の VMware Workstation のネットワーク ドライブへのアクセス問題

VMware Tools を使用して構成された VMware Workstation のマップされたネットワークドライブに標準ユーザーはアクセスできますが、管理者権限で実行する InstallShield がアクセスできなくなります。

詳細は、Reverera Community の「[A network drive mapped in VMware Tools is accessible only to Standard users, blocking access for InstallShield running as Administrator \(VMware Tools でマップされたネットワークドライブが標準ユーザーのみアクセス可能で、管理者として実行する InstallShield のアクセスがブロックされる\)](#)」を参照してください。



メモ: この問題は ISDEV-44315 として記録されています。

64 ビット InstallScript セットアップの InstallScript オブジェクト制限

InstallScript オブジェクト プロジェクトは、64 ビット InstallScript セットアップでサポートされていません。InstallScript オブジェクトが含まれている 64 ビット (x 64) アーキテクチャをターゲットとした Installscript プロジェクトをビルドしようとすると、ビルドタイム エラーが発生します。



メモ この問題は ISDEV-44640 として記録されています。

法的情報

著作権情報

Copyright © 2025 Flexera Software. All Rights Reserved.

この出版物には、Flexera Software およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な制作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera Software からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera Software によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera Software が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本テクノロジーおよびそれに関する情報のすべての複製は Flexera Software より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

知的財産

Flexera Software が所有する商標および特許の一覧は、<https://www.reverera.com/legal/intellectual-property.html> を参照してください。フレクセラ・ソフトウェア製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

(米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商用コンピュータソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。